

2012年 集落活性化県民討論会



法政大学 関司ゼミナール
小森・前田

板の沢集落概要 (2010年調べ)

➤ 人口 35人 (男性14人・女性21人)

➤ 戸数 10戸 (8人家族もいる)

➤ 高齢化率 40%

➤ 平均年齢

全体 57.7歳

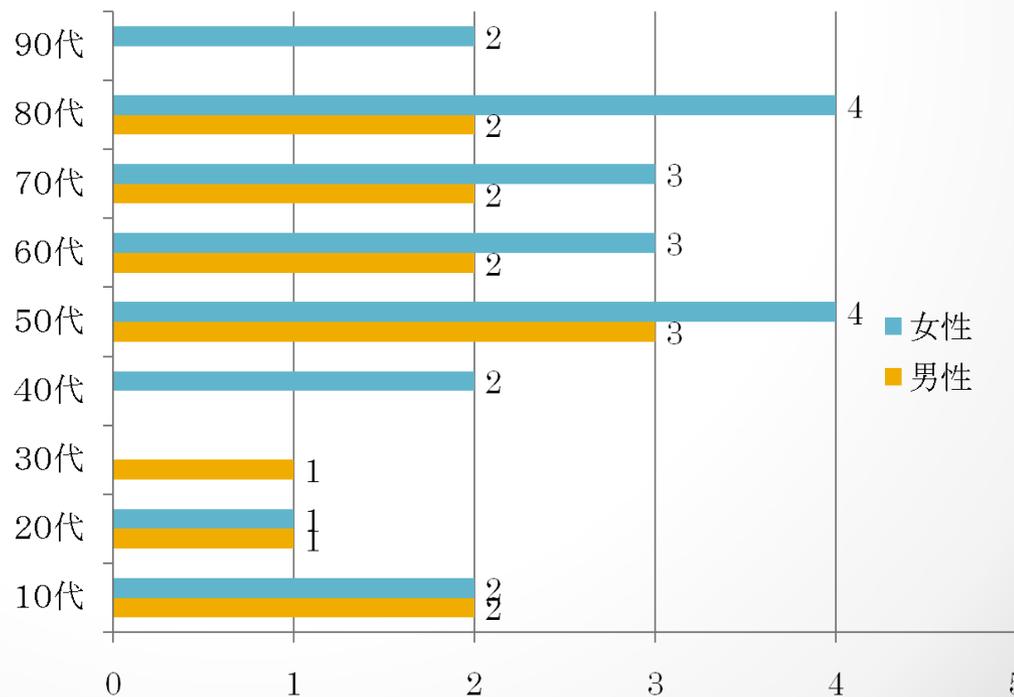
男性 56.5歳

女性 58.4歳

最高齢 91歳

最年少 15歳

年代別性別分布



これまでの活動（流れ）

日程	内容
2010年 8月29日～9月1日	集落訪問
10月26日	元気塾
11月21～22日	喜多方・会津若松報告会
2011年 2月5～7日	集落訪問
10月29日	土手かぼちゃ祭り
11月23日	元気塾
11月26日	青空市場マルシェ@築地

振り返る・・・

一年目 2010年 夏



佐藤さんによる集落概要説明



集落の方々と交流会



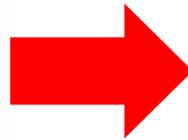
意見交換会



ヒアリング訪問

集落・人・現状・出来ることを知る！！

元気塾



喜多方市板の沢集落調査

法政大学現代福祉学部同窓会

① 日程・活動内容

8月27日	8月30日	8月31日	9月1日
喜多方市板の沢集落 ロシアン訪問	喜多方市	補足調査	意見交換会
村東説明(6時30分)	お茶会		
・対面式	お別れパーティ		

② 世帯状況

最年齢87才 最年少15才			
〈人口〉	〈戸数〉	〈高齢化率〉	〈平均年齢〉
35 (男性14) 女性21)	10戸	40%	全体 57.7才 男性 56.5才 女性 58.4才

③ 特徴・課題・気になったこと

- ・集落内の意識の共有 → セアリングで感じた
- ・学生ができる事は集落の良さを見つける
- ・長く住むということよりも、まずは板の沢を好きになっていくのが大事 →
- ・集落の魅力は人。今回、住民の人達と信頼関係ができた →
- ・昔やった行事はできないのか →
- ・セマサユリ祭の参加率が低い →

- ・ほとんどの人が畑を自分の代で終わらせようと思っている
- ・1回の訪問では足りないのも、また他の季節に訪れた!
- ・緊急時の対応が曖昧?
- ・猿被害が深刻であるが板の沢集落にだけ解決するのは難しい!

④ 今後に向けた提案

- ・農業体験や、10月10日(土) 10月11日(日) 農大100周年記念行事
- ・ドレコボチ製品を作る
- ・ケーキ、プリン、コロコロ
- ・板の沢のモノローグを考える → 住民の方も
- ・空き家を利用する → 宿泊の仕
- ・田舎暮らし体験ツアーと行う
- ・野菜の販売 →

*1回訪問のだけでは何事も言えないと思った。これらの訪問を重ねていくことで集落の人と絆を深めていきたい

夏の活動をもとにゼミで話し合ったことを発表

喜多方・会津若松報告会

提案①：駅伝・マラソン大会

なぜ、駅伝・マラソンなのか？

- 駅伝強豪校・有名な選手がいる!!
EX) ・田村高校、いわき総合など
・東洋大の柏原選手
- 現代のランニングブームに便乗する
- 山道を生かすチャンス



提案②：ハロウィンパーティー

なぜ、ハロウィンか？

- ドテカボチャのPR
- 祭りの再開催
- 集落外部の人を泊めるチャンス



今年の活動を踏まえてふたつの企画を提案した



1年目のまとめ



1. 集落歩き・ヒアリング・交流会などから集落・人・現状・問題課題を知る。
2. 夏の活動をもとにゼミで模造紙に整理し、それを元氣塾で報告。
→そこで問題・課題点が浮き彫りになる。
EX)集落の意識・情報の共有、強み・PRポイントなど
→今後集落がどうなりたいか方向性を示すきっかけになる
3. 報告会でマラソン大会・ハロウィンパーティーを提案。

二年目 2011年 冬



豊作祈願を願う団子刺し体験

夏とは違った冬の集落に触れる🍡



かぼちゃ祭り



優
川柳

板の沢
転がるかぼちゃに
みな笑顔

かぼちゃ転がし・かかしコンテスト・川柳大会・かぼちゃ料理

祭の様子



土手かぼちゃを真空パックにして配った

青空市場マルシェ@築地



風評被害に負けず完売！！

2年目のまとめ

1. 冬も訪れることで知らない集落の顔を知る
2. 提案実現に向けての話し合い

徐々に提案に現実味が帯びてくる・・・



板の沢の売りは
やはり**土手かぼちゃ**だ

その後、板の沢からかぼちゃ祭りをやりたい
→**かぼちゃ祭り開催へ**



二年間のまとめ

- 学生からの意見・提案が多く**受け身的**だったが・・・
- 今では集落から「こうしたいからここを手伝ってほしい」と**方向性**を示し、学生は縁の下の力持ちになれた
- お祭り開催、イベントへの参加と**集落に主体性**が芽生えた
- そして、**お互いの信頼関係**が生まれたと思う

板の沢集落と関わって

- 今後も板の沢集落と交流していきたい
 - 他の友達・後輩を誘って行きたい
 - 何かやりたいけど関わっていける責任は持てない
(就職活動・社会に出ると時間がないため・・・)
 - マルシェのように関東で何かやるときは協力したい
 - 法政大学の学祭で模擬店を出したい
 - 東京に来てもらって観光案内したい
- 板の沢に関わっていきたい



1. **Keep** . . . 福島県と関わり続けること、繋がっていること、発信し続けること

2. **Problem** . . . 学生というモラトリアムな存在でありながら、その後どのように関わっていけるだろうか...

3. **Try** . . . 福島県の集落が合同でマルシェのような市場もしくはお祭りを開催したい

最後に・・・



二年間、本当にありがとうございました！！
これからもよろしくお願ひします！！





ご清聴ありがとうございました。